

平成 29 年度 一般採用試験 (前期日程)

地理歴史 (世界史) 試験問題 (13頁中の1)

(人文・社会科学専攻)

(注意) 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

1 以下の問題文(01)～(03)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(01)

アッバース朝は、アッバース家のアブー＝アルアッバースがウマイヤ朝を打倒し、あらたに樹立した王朝である。その建国の過程では、シーア派や非アラブ人系イスラーム教改宗者の不満が利用された。しかし、建国後のアッバース朝は、多数派であるスンナ派を保護する一方、少数派のシーア派を弾圧した。

アッバース朝は、[ア]非アラブ人系の人材も積極的に登用し、高度に発達した官僚制度を整えた。[イ]徴税面では、アラブ人の特権を解消することにより、イスラーム教徒間の平等を実現しようとした。このアッバース朝の時代には、政治やムスリムの生活の指針となるイスラーム法の整備が進められた。アッバース朝のカリフも、ウラマーの有力者を裁判官に任命するなどして、イスラーム法にもとづく統治をめざした。

アッバース朝第2代カリフのマンスールは、762年、ティグリス川西岸において首都バグダードの建設を開始した。そして、そこを起点に、駅伝制にもとづく交通・通信網を整備した。[ウ]「平安の都」と称されたバグダードは、やがて国際交易の中心都市に成長し、最盛期の人口は150万人に達したという。

アッバース朝は、第5代カリフの(エ)の時代に最盛期をむかえた。[オ]このカリフはアラビア語の有名な説話集にも登場するが、彼は学芸を奨励し、バグダードに「知恵の宝庫」という図書館を設置した。第7代カリフのマームーン時代になると、その図書館は「知恵の館」(バイト＝アルヒクマ)とよばれる研究機関へと発展した。この研究機関の主目的は次の2点にあった。すなわち、ひとつは[カ]哲学や自然科学などの学術分野のギリシア語文献を収集することであり、もうひとつは、それらのギリシア語文献のアラビア語翻訳を作成することであった。こうしたギリシア語からアラビア語への翻訳作業はアッバース朝の初期頃から始まっていたが、「知恵の館」では、その翻訳作業が組織的かつ網羅的に実行された。

さて、以上のような翻訳事業の活性化にも支援され、[キ]ムスリムの学者は、ギリシア語による学問に、インドやイランの学問を融合させ、さまざまな学問を発展させていった。哲学・倫理学の分野では、[ク]アヴィケンナというラテン語名でも知られた学者が、アリストテレスの著作をもとにイスラーム哲学を体系化した。他方、[ケ]アヴェロエスというラテン語名でも知られた学者は、アリストテレスの著作の高度な注釈を行った。[コ]この両者は、ギリシアの医学を発展させたイスラーム医学の大家でもあった。この両者の著作はラテン語に翻訳され、ヨーロッパの学問の基礎を提供することになるのであった。

設問1 下線部[ア]について、官僚として活躍した人材を輩出したのはどの民族か。下記から選んで記号で答えなさい。

- A アヴァール人
- B イラン人
- C ウイグル人
- D エジプト人
- E オスマン人

設問2 下線部[イ]について、アッバース朝時代の徴税に関する記述として適切なものを下記から選んで記号で答えなさい。

- A アラブ人ムスリムからもジズヤを徴収した。
- B アラブ人ムスリムからもハラージュを徴収した。
- C 非アラブ人系ムスリムからもジズヤを徴収した。
- D アラブ人ムスリムと非アラブ人系ムスリムからはハラージュを徴収しなかった。
- E ジズヤはムスリムから徴収し、ハラージュは非ムスリムから徴収した。

設問3 下線部[ウ]について、しかし、10世紀以降になると、他のイスラーム王朝の支配者がバグダードに入城する事件も発生した。11世紀中頃バグダードに入城し、アッバース朝のカリフからスルタンの称号を授与された人物を答えなさい。

設問4 (エ)に入る人物を答えなさい。

設問5 下線部[オ]について、この説話集の題名を答えなさい。

設問6 下線部[カ]について、ヘレニズム時代から7世紀のムスリムの征服活動までの間、ギリシア語は、東地中海世界の共通の文章語であり、古代のメソポタミア文明やエジプト文明に発する学術や文芸は、ギリシア語で受けつがれてきていた。そのようなギリシア語の学術・文芸の中心地のひとつはシリアのアンティオキアだが、もうひとつの中心地はエジプトにあった。その都市名を答えなさい。

設問7 下線部[キ]について、たとえば数学の発展にはインド起源の概念の導入が貢献している。その事例としてもっとも適切なものを下記から選んで記号で答えなさい。

- A 十進法と負数の概念
- B 十進法とゼロの概念
- C 十二進法と負数の概念
- D 十二進法とゼロの概念
- E 十二進法と公倍数の概念

設問8 下線部[ク]の学者について、アラビア語名を答えなさい。

設問9 下線部[ケ]の学者について、アラビア語名を答えなさい。

設問10 下線部[コ]について、アヴィケンナの医学関係の著作をひとつあげなさい。

(02)

明朝を悩ました北虜南倭の活動は、16世紀中頃に頂点に達したといわれる。

北虜とは、北方のモンゴル系諸部族をさす。明朝第6代皇帝の(サ)の時代には、モンゴル系部族の一派であるオイラトが、(シ)を指導者として勢力を拡大し、中央アジアから朝鮮半島近辺にいたる大帝國をつくりあげた。このオイラトと明の間には朝貢貿易がおこなわれていた。だが、オイラトは貿易のさらなる拡大を求め、明はそれを拒否していた。こうした状況下で、1449年、オイラト軍が明に侵入した。当時、王振を重用していた明朝第6代皇帝は、王振の主戦論に従ってオイラト親征に出発して大敗した。さらに、[ス]この皇帝は北京西北の地でオイラト軍に捕えられ、連れ去られてしまった。

オイラト軍に拉致された皇帝は、翌年、北京に送り返されてきた。他方、オイラトの指導者は、その事件の数年後に部下に殺害され、オイラトの帝國も瓦解した。しかし、こうした失態により、[セ]永樂帝時代の明朝の對外発展の勢いは失われてしまった。15世紀中頃以降、明朝は周辺勢力に対してもっぱら守勢に立つことになった。

北方では、モンゴル系諸勢力の相争う状態がしばらく続いた。この間、明朝は北方防備のために長城を建築・整備した。その後、[ツ]チンギス=ハンの末裔といわれるダヤン=ハンが台頭し、明と朝貢貿易をおこなった。しかし、彼の死後に発生した内紛で朝貢貿易は中止された。その後、ダヤン=ハンの孫の(タ)が勢力を拡大すると、朝貢貿易の再開を要求して毎年のように華北に侵入するようになった。1550年、彼の率いるモンゴル軍は8日間にわたって北京を包圍した。この時、北京の守備隊は無力で、モンゴル軍は略奪放火をほしいままにした。この事件を庚戌の変という。1550年代は、そうしたモンゴル系部族の侵入が続き、北方辺境の緊張が頂点に達した時期であった。なお、これらのモンゴル系諸部族はオイラトの東方に位置し、明からは(チ)部とよばれた。

次に、中国の南方の沿海地方に目を転じてみよう。[ツ]明朝の海禁政策により、民間の海上貿易は禁止されていた。そこで登場するのが密貿易商人である。密貿易商人は、官の取り締まりに対抗するため、船団を組み、武力を準備しており、しばしば沿岸地方で略奪をはたらいた。当時倭寇とよばれたのは、こうした海賊・商人集団であった。

倭寇の活動に苦しめられた沿岸地方の人々にとって、倭(日本人)のイメージは、上半身裸で抜身の刀をふりまわす、剽悍な野蛮人というものであった。とはいえ、[テ]いわゆる「倭寇」が、日本人だけで構成されていたのではなかったことは、当時の人々にも、かなり広く知られていた。こうした海賊の活動を支援していたのは、東南沿岸の港市の富裕な勢力家であった。「衣冠の家」、すなわち[ト]科擧に合格したれっきとした紳士たちが裏で海賊と結託していることも少なくなかったという。1550年代は、倭寇の活動が最も活発化した時代であった。その後、名将の活躍で倭寇の制圧に成功した明朝は、1567年頃には海禁を緩和して、民間の海上交易を許可した。

設問11 (サ)に入る皇帝を答えなさい。

設問12 (シ)に入る人物を答えなさい。

設問13 下線部[ス]について、この事件名を答えなさい。

設問14 下線部[セ]について、永樂帝時代の明朝の對外発展のひとつとして鄭和の艦隊の南海諸国遠征があげられる。この鄭和の艦隊の遠征は、永樂帝から宣徳帝の時代にかけて何回実施されたか、算用数字で答えなさい。

設問15 下線部[ソ]について、チンギス=ハンの血統の権威を活用してトルコ系およびモンゴル系諸部族を統御し、中央アジアから西アジアにおよぶ国家を建設した人物がいる。15世紀初期、この人物は明の征服に向かう途上で病死した。この人物が建設した国家について、その初期の首都を答えなさい。

設問16 (タ)に入る人物を答えなさい。

設問17 (千)に入る語を漢字で答えなさい。

設問18 下線部[ツ]について、この政策が開始された時の皇帝を答えなさい。

設問19 倭寇は、14世紀を中心とする前期倭寇と16世紀中頃を中心とする後期倭寇とに分けられる。倭寇の民族構成について、下線部[テ]で言及しているような特徴が明瞭に認められたのは、前期倭寇と後期倭寇のいずれか。

設問20 下線部[ト]について、永楽帝は、科挙資格にこだわらず能力ある腹心の部下を活用しようとしたといわれる。一般に科挙合格者ではないが、永楽帝時代に重用されて活躍した人々のうち、以下に該当する人々を答えなさい。

「彼らは、中国の歴代の王朝でしばしば皇帝の側近として権力を握った。しかし、政治的混乱を発生させて王朝衰退の要因のひとつとなることもあった。」

(03)

第一次世界大戦では、兵士や労働者として300万人をこえる人々がアジア、アフリカから動員され、また大量の物資が植民地から徴発された。たとえば、イギリスはインドから兵士150万人を動員したという。

第一次世界大戦後のインドについて見てみよう。第一次世界大戦中にインドの自治権を約束していたイギリスは、1919年にインド統治法を制定した。[ナ]ただし、イギリスは、その同じ年にローラット法を制定し、独立運動の活性化にそなえていた。

これに対し、[ニ]国民会議派の指導者ガンディーは、納税の拒否やイギリス商品の排斥運動に民衆を動員した。しかし、運動が高揚してイギリス側との衝突が頻発すると、運動の中止を指示した。このため、運動は混乱し、国民会議派の指導権も左派の(ヌ)らに移っていった。国民会議派は、1929年にラホール大会を開催し、(ネ)という方針を決定した。ガンディーも、その翌年から「塩の行進」とよばれる新たな抵抗運動を組織した。

そこで、イギリスは、インド人の指導者たちを[ノ]英印円卓会議に招いて妥協の道をさぐった。そして、1935年に(ハ)を制定した。この間、軍人や役人にインド人が登用されるようになり、イギリスのインド支配は、インドの知識人に依拠するものとなった。[ヒ]しかし、ムスリムたちは排除されたので、彼らの不満は高まった。

続いて、第一次世界大戦後の東南アジアの状況を見てみよう。

オランダ領東インドでは、1920年にアジア最初の共産党である[フ]東インド共産党が結成され、その勢力を急速に拡大した。この政党は、1926～27年にスマトラやジャワで蜂起したが、オランダ軍に壊滅させられた。1927年には、(ヘ)の指導下に[ホ]インドネシア国民党が結成され、ムルデカ(愛国)運動を提唱した。しかし、1930年代に入ると、オランダの弾圧が強化されて民族運動の指導者の大部分が逮捕された。

ヴェトナム(ベトナム)では、1920年代に民族主義運動が高揚期をむかえ、民族主義諸政党が誕生した。1927年に結成されたヴェトナム国民党は、1930年に北部で蜂起したが、[マ]アメリカ合衆国軍によって弾圧された。その1930年には、ホー＝チ＝ミンの指導下に[ミ]ヴェトナム共産党が結成され、ヴェトナム中部で蜂起した。1936年には、共産党と民族主義政党の統一戦線が結成されて地方議会に進出した。しかし、1930年代末には、再び弾圧をうけて壊滅状態となった。

ビルマでは、サヤ＝サンが指導する大規模な農民運動が発生した1930年、ラングーン大学の大学生を中心に(ム)が結成された。その後、この政党はアウン＝サンの指導下で[メ]フランスに対する抵抗運動を展開した。

タイでは、1932年に立憲革命がおり、憲法を發布して議会が開設された。また、フィリピンでは、(モ)が1934年に、10年後の独立を約束した。

設問21 下線部[ナ]について、ローラット法の説明として適切なものを下記から選んで記号で答えなさい。

- A インド政庁が制定した緊急刑事特別法で、令状なしの逮捕や裁判ぬきの投獄などを可能とした。
- B インド政庁が制定した緊急刑事特別法で、民族運動の指導者の国外追放を容認した。
- C インド政庁が制定した緊急刑事特別法で、インド国民会議派に3年以内の解散を命じた。
- D インド政庁が制定した緊急刑事特別法で、ヒन्दゥー教徒とムスリムの居住地の隔離を目的とした。
- E インド政庁が制定した緊急刑事特別法で、インドに対する自治権付与の時期を10年先にのばすことを決定した。

設問22 下線部[ニ]について、ガンディーの指導によって展開された大衆運動にはユニークな特徴があった。その特徴を答えなさい。

設問23 (ヌ)に入る人物を答えなさい。

設問24 (ネ)に入る語を答えなさい。

設問25 下線部[ノ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問26 (ハ)に入る法律を答えなさい。

設問27 下線部[ヒ]について、全インド＝ムスリム連盟の活動は、1934年にある人物が議長になってから活性化した。この人物を下記から選んで記号で答えなさい。

- A アンベードカル
- B ジンナー
- C ティラク
- D シヴァージー
- E アムリットサル

設問28 下線部[フ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問29 (ヘ)に入る人物を答えなさい。

設問30 下線部[ホ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問31 下線部[マ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問32 下線部[ミ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問33 (ム)に入る政党名を答えなさい。

設問34 下線部[メ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問35 (モ)に入る国名を答えなさい。

2 以下の問題文(04)～(08)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(04)

カール大帝の広大な領土は843年の(ア)条約、870年の(イ)条約によって東フランク、西フランクおよびイタリアに分割された。これらの王国が、のちのドイツ、フランス、イタリアに発展していく基礎となった。

東フランクにおいては、諸侯勢力ははじめから部族的伝統を足掛かりとして発展し、早くから実質的には国王選挙権を確立した。911年(ウ)家が断絶すると諸侯勢力はフランケン公を王に選出し、部族連合という形でドイツ王国が誕生した。ザクセン朝2代目の国王(エ)は、955年にレヒフェルトの戦いで(オ)人を破り、イタリアに侵入してローマ教皇の権威を回復、962年教皇より帝冠をうけた。ここに神聖ローマ帝国が始まり、以後ドイツ王は即位後イタリアに赴いて教皇の手により戴冠され、神聖ローマ皇帝位を兼ねた。この帝権と教権の結合は皇帝に教会支配を握らせ、それを支柱に皇帝は分立的諸侯を抑えることができた。それとともに皇帝はヨーロッパ世界における俗界の最高権威たる栄位を担った。(エ)以来、歴代皇帝がイタリアに絶えず関心を持ち、ドイツ国内の問題をあまりかえりみなかった理由の一つは、教会との提携に多くを負う皇帝が教皇との関係を考えざるを得なかったことにあった。

中世の教会は私有教会制のもとで発展し、聖職任免や教会財産の管理も世俗領主に握られることが多かった。とくにドイツでは皇帝が帝国の司教および修道院長の任命権を行使し、ローマ教皇の登位にもしばしば干渉した。このような俗人による教会支配は[カ]教会の頹廃を招き、10世紀後半から(キ)修道院を中心とする改革運動が起こった。1075年教皇(ク)は皇帝権に対する教皇権の優位を主張し、教権と俗権の闘争が開始された。闘争はイギリスやフランスでも行われたが、教会支配を帝国統治の最重要政策としてきた神聖ローマ皇帝と、反皇帝派ドイツ諸侯に支持された教皇との闘争が最も激しかった。約半世紀にわたったこの闘争は、1122年(ケ)により妥協のうちに終結した。[コ]この闘争期より教皇権は高まり、やがて全盛期を迎えることとなる。皇帝の教会支配権は闘争を通じてしだいに崩壊し、諸侯権力が強化された。

設問1 (ア)は非常に多くの死傷者を出した激戦地であるが、その戦争を下記から選んで記号で答えなさい。

- A ガリア戦争
- B 百年戦争
- C 三十年戦争
- D ナポレオン戦争
- E 第一次世界大戦
- F 第二次世界大戦

設問2 (イ)に当てはまる地名を答えなさい。

設問3 (ウ)に当てはまる語を答えなさい。

設問4 (エ)に当てはまる人名を答えなさい。

設問5 (オ)に当てはまる語を答えなさい。

設問6 下線部[カ]について、特に改善が必要とされた問題を二つ答えなさい。

設問7 (キ)に当てはまる語を答えなさい。

設問8 (ク)に当てはまる人名を答えなさい。

設問9 (ケ)に当てはまる語を答えなさい。

設問10 下線部[コ]について、教皇権絶頂期の教皇名を答えなさい。

設問11 設問10の教皇について、下記の記述から正しいものを一つ選んで記号で答えなさい。

- A イギリス王ヘンリ8世を破門した。
- B 「皇帝は太陽であり、教皇は月である」と述べた。
- C 第1回十字軍を提唱した。
- D シュタウフェン家のフリードリヒ2世を皇帝戴冠した。
- E フランス王フィリップ4世を破門した。
- F 北フランスを中心に広まっていたアルビジョワ派に対する十字軍を提唱した。

(05)

ドイツでは、叙任権闘争ののち、封建諸侯が各地に独立割拠し、このため神聖ローマ帝国は分裂に向かった。13世紀には皇帝のいない(サ)が20年近く続き、^[シ]皇帝カール4世は1356年に金印勅書を発布して、選帝侯の権限や、彼の所領内における主権を確認した。これにより帝国はますます分権化した。ドイツに領邦分裂の状態を決定づけたのは、宗教改革後の動きであった。ことに皇帝と領邦君主の争いは(ス)によって一応決着がつけられたとはいえ、「治めるものの宗教がその地の宗教」という原則は宗教の面まで領邦の主権を拡張することとなったので、帝国の政治的分裂は決定的となった。この原則が導火線となり^[セ]三十年戦争が起こったが、この戦争の舞台となったドイツでは、農村は荒廃し、商工業は衰えて、みじめな状態に突き落とされた。そのうえ、この戦争の結果むすばれた(ソ)条約で、諸邦はほぼ完全な主権を得て、帝国は約300の領邦に分裂し、神聖ローマ帝国は名目だけの存在となった。この条約は、まさに「神聖ローマ帝国の死亡診断書」となったのである。

設問12 (サ)に当てはまる語を答えなさい。

設問13 下線部[シ]について、この時代に神聖ローマ帝国の首都として繁栄した都市名を答えなさい。

設問14 (ス)に当てはまる語を答えなさい。

設問15 下線部[セ]について、下記の記述から正しいものを一つ選び記号で答えなさい。

- A ベーメンの新王ファルツ選帝侯がベーメンに旧教を強制し、反発したベーメンの新教徒がおこした反乱がきっかけとなった。
- B ブランデンプルクははじめ反皇帝側で、後に皇帝側で参戦したが、その後中立政策をとった。
- C カルヴァン派のデンマークは、イギリスやオランダと結んで、参戦した。
- D ルター派のスウェーデン王ヴァレンシュタインは、プロテスタント支援を名目にドイツに侵入した。
- E フランス王ルイ14世とその宰相リシュリューは、プロテスタント側に立って参戦した。

設問16 (ソ)に当てはまる語を答えなさい。

(06)

ドイツにおける近代的統一国家の形成は、領邦ごとになされることとなった。このうち有力なものとしては、15世紀から代々神聖ローマ皇帝に選ばれたハプスブルク家の支配するオーストリアや[タ]エルベ川以東のブランデンブルク－プロイセンなどがあった。ハプスブルク家のオーストリアは、なにしろ歴史の古い名門で、フランスにならぶヨーロッパの強国であった。この国は三十年戦争以後神聖ローマ皇帝としてドイツを支配することと西方に伸びてゆくことをあきらめ、[チ]東南方に領土を広げた。領土内には多くの異民族がおり、国家の統一は弱かった。これに対してプロイセン（ブランデンブルク－プロイセン）は17世紀中頃まではドイツの中でも中流の領邦にすぎなかった。ところが1世紀後の七年戦争を契機として、ヨーロッパの強国に躍り出ることとなった。オーストリア継承戦争が起こると（ツ）は石炭・鉄の産地で、肥沃な耕地や繊維産業を有する（テ）を手に入れた。その後プロイセンはポーランド分割に参加し領土を広げたが、ナポレオンに敗れ領土を縮小した。これを契機に行われたプロイセン改革は農民解放などの行政改革、営業の自由化などの経済改革、都市条例による都市への自治権付与、[ト]軍制改革、[ナ]教育改革などを含み、「上からの近代化」をすすめたもので、のちにプロイセンがドイツ統一の中心となる基礎をすえるものであった。ウィーン会議でプロイセンは工業地帯の（ニ）などを得た。ドイツでは35君主国と4自由市で構成されるドイツ連邦が形成されたが、連邦議会の議長国はオーストリアであった。オーストリアは古い歴史にもかかわらず、領土内に多くの異民族をかかえており、しかも近代工業が発展しなかった。これに対して、プロイセンはユンカーの支配が強いとはいえ、ウィーン会議でドイツのもっとも先進的な工業地帯である（ニ）を手に入れて、この地方を中心に産業革命が進み、ブルジョワジーの発言力が強まっていた。かれらのドイツ統一への強い要望を反映したのが（ヌ）である。これはドイツの政治的統一に先立って経済的統一を進めたもので、統一に対するプロイセンの主導的な地位を固めたものであった。

設問17 下線部[タ]について、15～16世紀以降この地で発展した農業経営は何と呼ばれるのか答えなさい。

設問18 下線部[チ]に該当する事項を下記から選んで答えなさい。

- A トルコマンチャーイ条約
- B コソヴォの戦い
- C サン＝ステファノ条約
- D モハーチの戦い
- E カルロヴィッツ条約
- F アンカラの戦い

設問19 （ツ）に当てはまる人名を答えなさい。

設問20 （テ）に当てはまる地名を答えなさい。

設問21 下線部[ト]について、これに携わった人物を下記から二人選んで記号で答えなさい。

- A シャルンホルスト
- B ハルデンベルク
- C フィヒテ
- D グナイゼナウ
- E シュタイン
- F フンボルト

設問22 下線部[ナ]について、これに携わった人物を設問21の選択肢から一人選んで記号で答えなさい。

設問23 (ニ)に当てはまる地名を答えなさい。

設問24 (ヌ)に当てはまる語を答えなさい。

(07)

「1848年と1849年の大失敗」は、ブルジョワジーの弱体ぶりをさらけ出し、結局はユンカーを主体とするドイツ統一が行われることとなる。ユンカーは自分の存在基盤である農民たちに対する支配を残しながら、あくまでも軍備の拡張を図り、武力をもってドイツ統一を実現しようと考えた。ユンカー出身のプロイセン首相ビスマルクは「・・・われわれは血気にはやり、自らの貧弱な体にとって大きすぎる軍備をもちたがる傾向を持つが、ただ問題はこの軍備をいかに活用すべきかである。ドイツが注目するのはプロイセンの(ネ)にではなく、その力にである。・・・現下の大問題は言論や多数決によってではなく、——それこそは[ノ]1848年と1849年の大失敗であった——(ハ)によって解決されるのである。」と述べ、議会を無視して軍備拡張を行い、ひたすら力によってドイツ統一の実現をはかろうとした。プロイセン＝オーストリア戦争で、わずか7週間の短期間にオーストリアを破り、(ヒ)に基づく統一が優勢となった。ドイツ統一を邪魔していたフランスをプロイセン＝フランス戦争で破り、1871年1月29日、ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」でドイツ帝国の成立を宣言した。新帝国はプロイセン軍国主義のいない手であったユンカーという古い勢力が下からの国民の盛り上がりを抑えて実現したものであった。しかしともかくもドイツは統一を成し遂げたことによって、鉄道、金融制度を整備し、またフランスからの50億フランの賠償金と(フ)を得たことにより資本主義を急速に成長させることができた。

設問25 (ネ)に当てはまる語を答えなさい。

設問26 下線部[ノ]について、何のことを指しているのか答えなさい。

設問27 (ハ)に当てはまる語を答えなさい。

設問28 (ヒ)に当てはまる語を答えなさい。

設問29 (フ)に当てはまる地名を答えなさい。

(08)

ビスマルクは、統一されたドイツの安全をはかるため、列強の勢力均衡を実現することと、フランスを孤立させることをめざした。そのために複雑な同盟網によって、ビスマルク体制といわれる安全保障体制をつくりあげた。国内においては、ビスマルクは、[へ]政治権力の付与を拒否する代わりに経済利益を与えることにより産業資本家を手なずけつつ、工業社会への移行とともに経済的に弱体化しつつあるユンカー階級を保護することにより、産業資本家とユンカーを結束させて、これを帝国の支柱とした。ビスマルクは、当初、植民地獲得には消極的であったが、1880年代になって[ホ]アフリカや太平洋での植民地獲得にのりだした。しかし、1890年、いっそう積極的な対外膨張政策を主張する[マ]新皇帝ヴィルヘルム2世によって辞職させられた。ビスマルクの失脚によるビスマルク体制の崩壊は、ドイツ資本主義が帝国主義的進出を積極的になしうるまでに成長したゆえであり、この意味において構造的なものであった。ヴィルヘルム2世の時代になると、独占段階に達したドイツ資本主義の影響と皇帝個人の性向とあいまって、[ミ]対外進出は積極的となった。しかし獲得された植民地の経済的価値は乏しく、近東、とくにトルコの利権獲得に重点が置かれた。1899年のバグダード鉄道敷設権獲得に始まる3B政策は、ドイツの重要な帝国主義政策となった。この政策が近東に利害関係を持つイギリス、ロシア、[ム]フランスなどとの対立を深めることとなった。

設問30 下線部[へ]について、具体的には何を指しているのか答えなさい。

設問31 下線部[ホ]について、列強によるアフリカ分割競争に拍車をかけることになった契機を答えなさい。

設問32 下線部[マ]について、外交面でヴィルヘルム2世が反対したことを答えなさい。

設問33 下線部[マ]について、内政面でヴィルヘルム2世が反対したことを答えなさい。

設問34 下線部[ミ]について、ドイツが1898年に清朝から期限99か年で租借した場所を下記から選んで記号で答えなさい。

- A 威海衛
- B 九龍半島
- C 遼東半島
- D 膠州湾
- E 広州湾
- F 福建省

設問35 下線部[ム]について、ドイツはこの国とモロッコでも事件を起こしたが、この事件の解決のために国際会議が開かれた国名を答えなさい。